Negative-pressure wound therapy is effective for peritoneal dialysis catheter exit-site management in the early postoperative period

メタデータ	言語: English
	出版者:
	公開日: 2023-06-19
	キーワード (Ja):
	キーワード (En):
	作成者: 福崎, 晴奈
	メールアドレス:
	所属:
URL	https://jair.repo.nii.ac.jp/records/2002973

授与機関名　順天堂大学

学位記番号　甲第 2658 号

Negative-pressure wound therapy is effective for peritoneal dialysis catheter exit-site management in the early postoperative period

腹膜透析カテーテル出口部に対する局所陰圧閉鎖療法の効果の検討

福崎 晴奈（ふくざき はるな）

博士（医学）

論文内容の要旨

腹膜透析（peritoneal dialysis；PD）関連腹膜炎は PD における重大な合併症の 1 つである。さらにカテーテル関連感染症（catheter-related infection；CRI）と称される出口部感染とトンネル感染は PD 関連腹膜炎に至る主要因であり、その予防において出口部管理は非常に重要である。PD カテーテル出口はカテーテルと常に接する鈍的な開放創として作製されるため、治癒が遷延しやすく術後早期の安定化が課題となる。局所陰圧閉鎖療法（negative-pressure wound therapy；NPWT）は創傷を密封し陰圧ドレナージを加え創傷治癒を促進させる物理療法で、PD カテーテル出口部の早期安定化への効果も期待される。本研究は PD カテーテル出口部に対する NPWT の効果を検討することを目的とし、順天堂医院腎・高血圧内科で PD カテーテル留置術と PD 導入を一期的に行った患者 30 名を対象に行った前向き研究である。術後 7 日間 NPWT を行う 15 名（NPWT 群）と従来通りドレッシングフィルムで被覆する 15 名（非 NPWT 群）に分け、術後 7 日目・術後 180 日間にわたる出口部スコア、初回の CRI および PD 関連腹膜炎発症までの日数について検討した。出口部スコアは術後 7 日目（NPWT 群；中央値 1.0［0-2］、非 NPWT 群；中央値 2.0［1-2］、$p = 0.0049$、Mann-Whitney U 検定）、さらに 180 日間を通して（$p = 0.007$、ANOVA 検定）NPWT 群で有意に低値であった。非 NPWT 群の 1 例では CRI ののち再燃性腹膜炎を呈し、カテーテル抜去と再挿入を要した。初回の CRI および PD 関連腹膜炎発症までの日数に有意差は見られなかった。NPWT は PD カテーテル出口部の術後早期安定化に効果的であり、新たな術後の出口部管理の方法として期待される。